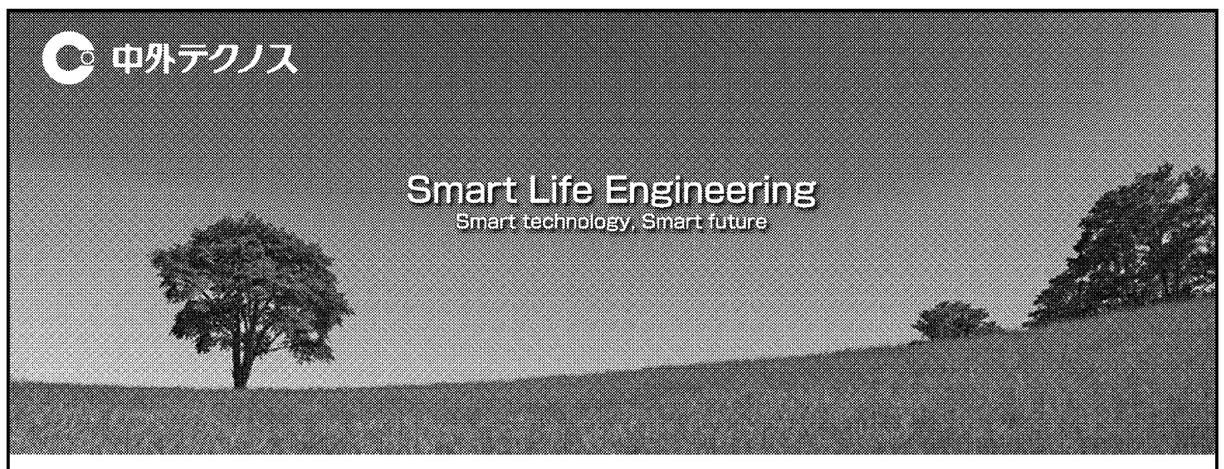


中外テクノスは東日本大震災発生直後に「震災対策プロジェクト」結成し、試験・検査・調査・コンサルティング・研究開発を通して、除染、震災復興事業に貢献しています。

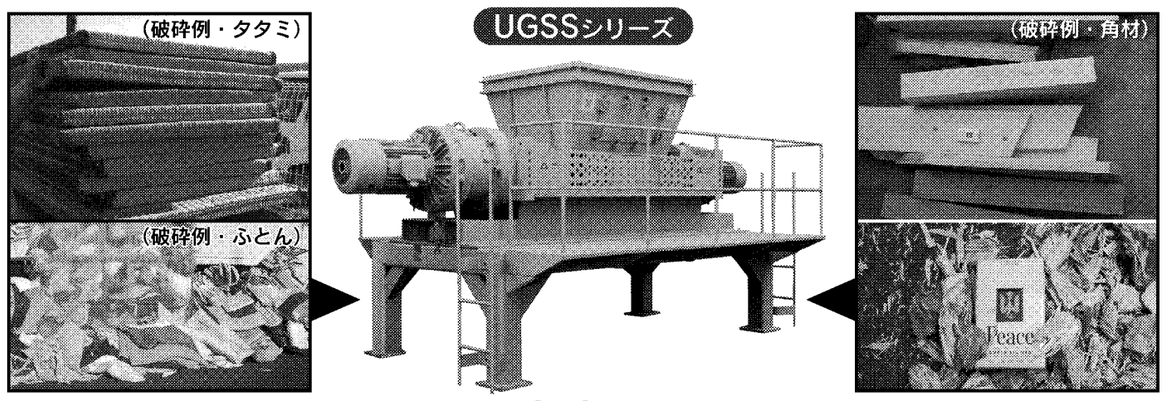
私たちは常に「最適な技術」を考え、選び、追求しています。
最適な技術の先に、Smart Lifeの実現を。

中外テクノス株式会社
www.chugai-tec.co.jp

本　社　〒733-0013 広島県広島市西区横川新町9番12号　TEL.082-295-2222
東京支社　〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町1丁目12番9号　TEL.03-3863-0055
東北営業所　〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3丁目4番18号　TEL.022-217-6626

資源リサイクル化に貢献する
ウジイエの次世代型　スーパー破砕機
お客様第一
品質第一
安全第一
グッドカッター

低トルク！ 低騒音！ 一体型変則ネジレ刃！ で強力剪断・破砕！



●難破砕材の剪断・破砕に挑戦します。
●切れ味・破砕力・耐久性・保守性・軽量化・操作性・安全性で末永く貢献いたします。
●大・中・小型機。自動車搭載型と豊富な品ぞろえをいたしました。
●アフターサービスを充実。即応体制を整えました。
●テスト破砕はいつでもご用命ください。

[用途]
●漁網、タタミ、ふとんなどの破砕に！
●廃棄プラスチック・可燃ゴミ固形燃料化前工程の剪断・破砕に！
●剪定枝・落ち葉・雑草・魚類・野菜屑等、バイオコンポスト前工程の剪断・破砕に！
●アルミ、鋼鉄、プラスチック、空き缶、電線、電話機、自動車タイヤ内装材、バンパー、FRP、ガラス、木材、電話帳、生ゴミなど破砕に！

彩の国工場 指定
株式会社 氏家製作所
〒330-0856 さいたま市大宮区三橋1丁目592番地
TEL.048-663-1081代表 FAX.048-652-1854
REGISTERED ORGANIZATION No.0801-ISO9001　JAB CM002
URL http://www.ujiie-ss.co.jp

震災の記憶を風化させない

被災地支援の最前線　企業へのメッセージ

雇用創出に企業の出番

東日本大震災からの復興を進めていくには産業界の積極的な取り組みが欠かせない。岩手県遠野市を拠点とする支援団体「遠野まごころネット」は、ボランティアを主体に活動。これまで国内外から個人はもちろん、多くの企業も受け入れてきた。理事長の多田一彦氏は、今後の復興を見据えて「まさに企業の出番」と強調する。

遠野まごころネット
理事長
多田 一彦氏

震災後、避難所から仮設住宅への移動が始まったとき「仮設に移ったら自立が必要だ、物資はもう配布しない」という話を聞いたことがあると思う。人が自立できるためには「衣食住業」という社会的要素があり、そこから自立心が生まれる、そしてやがて自立が可能になる。しかし、その社会的要素を個々の人間（特に被災した高齢者）が自ら作り出すのは、大変に難しい。だから被災者からすれば「〝自立、自立〟と言うのはちょっと待ってください」という状況だったと思う。

時が流れ、いま震災から3年目に入る。フェーズも変わったと言われる昨今「早く復興を進めて社会的要素をつくってください。もしくは私たちにつくらせてください」と考えているのが被災地の人々。そして「ちょっと待ってください」と言っているのが、行政など復興担当者というのが現状。要するに、前段の状況において「復興を進めて社会的要素をつくるから、早く自立したいでしょうが少々待ってくださいね」と言うべきは、復興担当者でもあったということだ。

「衣食住業」という社会的要素ができあがってくるということは、雇用を創出できるということ。いま遠野まごころネットではまさに雇用を創出すべく、活動を展開している。それは起業支援や企業支援だけではなく、私たち自らが起業して雇用を創出することも含めて挑戦している。

これから展開していく事業は、住宅展示場の開設、農水産物加工販売、カフェレストラン運営、コミュニティーセンター運営、伴走型生活支援、伴走型職業紹介所、旅行業、地域企業の育成、自殺防止コールセンター、など多岐にわたる。これらを網の目上に広げていく。雇用創出は被災者だけで開拓するには限界がある。今までもそうだったが、まさに今こそ企業の出番。ビジネスの視点が大事。自社の能力ある開拓者を現地に送る、もしくは自分が適任だと思う人は自らを投入してほしい。（談）

《メ モ》 遠野まごころネット＝岩手県遠野市の有志で2011年３月の東日本大震災後、すぐに設立。11年７月にＮＰＯ（特定非営利活動）法人化。これまで世界約20カ国から累計８万2000人以上が参加し、沿岸部の被災地で活動。震災後当初のがれき撤去、支援物資配布などから、街づくり支援、起業支援など幅広く手がけている。

原発事故による旧警戒区域では、２月にようやくがれき撤去作業が始まった（福島県南相馬市塚原地区）

震災直後も今も多くの人がボランティアでがれきの片付けなどに参加している（2011年７月、岩手県陸前高田市）

阪神・淡路大震災の記憶を後世に伝えるため整備された「神戸港震災メモリアルパーク」